

② 岩田校区支え合い活動「のん・ほい」

4月9日、豊橋市岩田校区市民館では2017年度支え合い活動「のん・ほい」の総会が行われた。

「のん・ほい」は、13年から2年間の市福祉部長寿介護課の「地域の絆創生プロジェクト」モデル事業としてスタート。地域包括支援センター「ケアコープ豊橋」が中心となり、市内で高齢者が3番目に多く、高齢者のみの世帯も多い岩田

「向こう3軒、両隣」助け合い活動広めたい

移動、代筆、留守中「のん・ほい」の会長を水やりなどの困り務めている。

青木会長は携帯電話を常に持ち歩き、頼りがかかってくる。住民からの相談や依頼が

会加入者で30分100円、未加入者は200円としている。「困っていても声を出せない人も多いので、いい意味で向こう3軒、両隣の助け合い活動を広めていきたい」とコープイネーター代表の長田美佐子さん(74)。

校区で暮らす人が互いに協力し「のん・ほい」と気軽に声をかけ合う関係が自然に広がってほしいと15年4月に始まった。買い物、掃除、簡単な草むしり、庭木の枝きり、食事の準備、ゴミ出し、散歩の付き添い、電球の交換、小さな家具の

ことをお手伝いしている。65歳以上の一人暮らし、高齢者世帯の依頼に限定し、昨年度の受け付け件数は48件、実施件数は43件。中心にいる青木哲夫さん(68)。3年間、校区自治会長を務めた経験から「の

おたがいさまの
まちづくり



青木会長を中心に行われた「のん・ほい」総会

ると、地域コーディネーターへ調査を依頼し、地域コーディネーターは依頼事項を聞き取り調査し、内容によってボランティアスタッフを手配。ボランティアスタッフはお手伝いし、実費弁償を受け取る。

現在、地域コーディネーターを各町に配置し7人、ボランティアは40人の体制。実費弁償は自治体 予定 ※次回は18日掲載 (伊藤秀昭)